

トンネル栽培ニンジンに発生するホモノハダニの被害

○亀代美香, 兼田武典 (徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所)
南利夫 (鳴門藍住農業支援センター)

徳島県でのホモノハダニの発生状況

徳島県では、3～5月に収穫するニンジンのトンネル栽培がさかんである。以前から、一部の限られたごく少数の特定のトンネル栽培ニンジン圃場ではダニの多発生により、葉が吸汁されて黄化し、生育が著しく抑制され収量が大きく低下する被害が発生していた。板野町の被害圃場から採取したダニを後藤哲雄氏（茨城大学）に同定依頼したところホモノハダニ *Petorobia latens* (Müller) であることが判明した。

平成 23 年 3～4 月には例年にないほど現地からの問い合わせがあり、徳島県のニンジン産地のうち美馬市、吉野川市、上板町、板野町、藍住町の特定の少数の圃場でニンジンのホモノハダニによる被害が確認された。水田後作でのトンネルニンジン栽培の多い、阿南市、徳島市、石井町では、被害圃場は確認されていない。ホモノハダニは国内ではイネ科作物、マメ科作物、ネギ、イチゴでの被害が報告されているがニンジンでの被害は新発生ということで徳島県は平成 23 年 3 月 28 日付で発生予察情報の特殊報を発表した。

生態

地面や植物体上を非常に活発に動き回り、糸はだしていなかった。

雌雄を確認した成虫は全て雌であり、雄成虫は確認されなかった。

卵→幼虫→(休止時期)→第1若虫→(休止時期)→第2若虫→(休止時期)→成虫という生育をしているようである。3月下旬以降の高温時になると白い覆いを被った休眠卵も産むようになる。休止時期には地面や土塊の表面や、枯れた下葉や、プラスチック資材等に集合していることが多い。卵も葉に産むことは少なく、地面や土塊の表面や、枯れた下葉や、プラスチック資材等に産み付けてあることが多い。

ニンジントンネル内での発生推移

板野町の 12 月上旬播種した被害圃場において粘着板での払い落としにより発生虫数を調査したところ、3月中旬から既に発生が始まっており5月上旬の収穫まで成虫、若虫、幼虫の発生がみとめられた。しかし、トンネル内部での発生数には場所によるバラツキが多く、外観の被害程度はトンネルの内側でひどく、外側では軽い傾向があった。

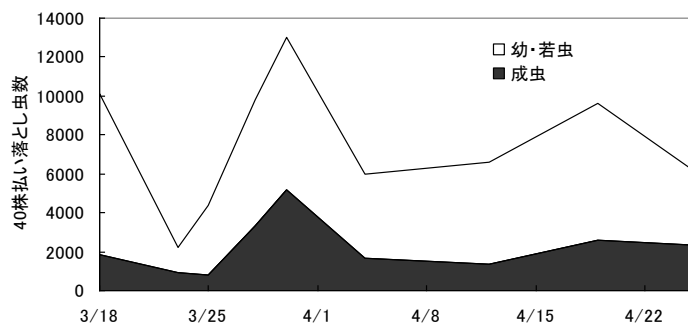


図1 ニンジントンネル内での発生推移



図2 左：無被害株 右：被害株